

## 情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認結果

情報・システム研究機構長の業務執行状況の確認規則第3条に基づき、令和3年度の機構長の業績について、業務執行状況の確認を実施しましたので、その結果を報告いたします。

### 1. 実施方法

「第3期中期目標期間終了時業務の実績に関する報告書」及び機構長との意見交換並びに監事からの意見等をもとに、業務執行状況の確認を行った。

### 2. 対象期間

令和3年4月1日～令和4年3月31日

### 3. 確認結果

- 特筆すべき状況を生み出している
- 順調に進めている
- おおむね順調に進めている
- やや遅れている
- 重大な改善事項がある

### 4. 理由

リーダーシップを発揮し、分野も来歴も異なる4研究所と1施設を、丁寧な対話と情報共有によってまとめており、機構が果たすべきミッションを的確に推進している。

DS施設を中心とした機構横断的な組織改革を行い、既存の組織をより強く連携させる形で拠点形成に着手した。特に国内で極度に不足しているデータサイエンス高度人材を各研究分野で育成するため、機構長裁量経費によるプログラムを先行させ文部科学省の補助事業を獲得するなど先見的な取組みを行っている。また、新型コロナウイルス感染症への対応に関しても機動的に取り組み安定的な業務遂行に努めるとともに、「COVID-19対応研究」を実施したことは評価できる。このほか、産学連携等の研究資金獲得においても年度計画を大きく上回っている。

さらに、一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンスの設立に参画し、今後の法人間の連携を推進する体制の強化に寄与した。

なお、課題とされていたコンプライアンス事案への対応については、法令遵守を徹底するため、機構内の内部統制機能を継続的に検証する仕組みを構築した。

これらを総合的に勘案し、令和3年度の機構長の業務執行状況は、「順調に進めている」と評価した。